

市民意識調査(概要版)

1 回答者について 【(参考)報告書p.1】

対象:市内にお住まいの18歳以上の方から無作為に選んだ3,000人

回答者数:1,439人

【有効回答率の推移】

H24年度	H26年度	H29年度	R1年度 ①回目	R1年度 ②回目	R5年度	R6年度
51.0%	47.7%	53.7%	46.1%	47.7%	53.3%	48.1%



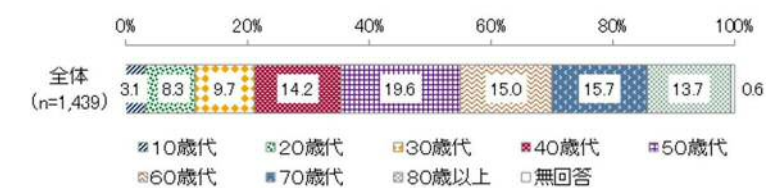
今回

以下、回答者属性と特徴的なものを抜粋している。

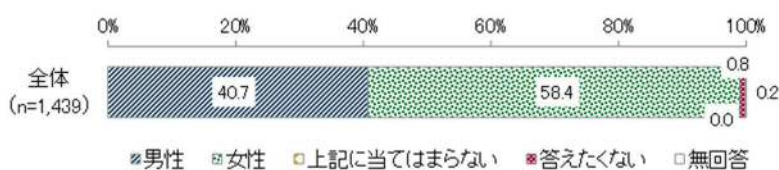
2 回答者属性について 【(参考)報告書p.7～9】

(1)年齢

(3)居住地区



(2)性別

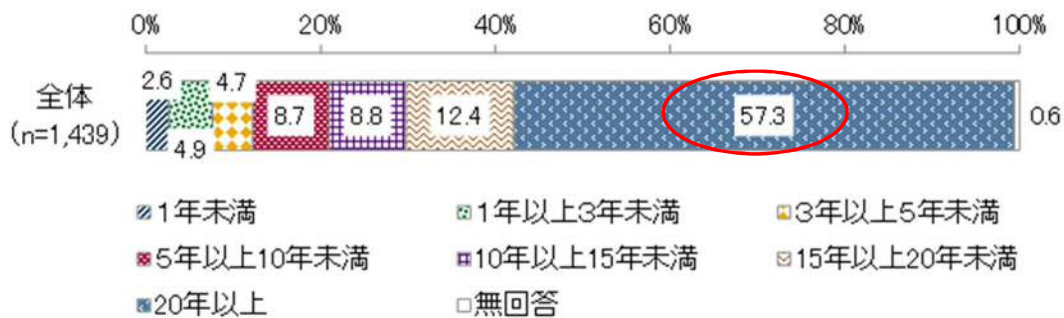


3 皆さまの暮らしについてお聞きしました

(1) 居住年数(年代別)【(参考)報告書p.13】

Q:あなたは芦屋市内に通算で何年住んでいますか。

●居住して「20年以上」の割合が57.3%。

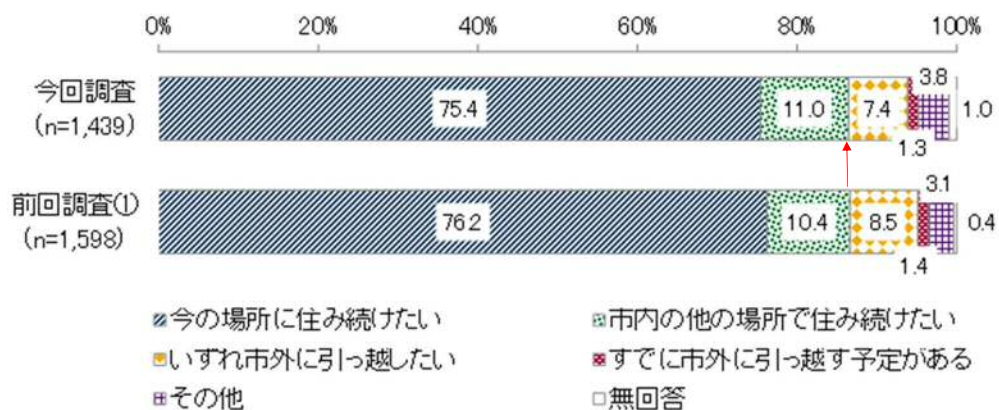


3 皆さまの暮らしについてお聞きしました

(2) 定住意向【(参考)報告書p.17】

Q:あなたは、(転勤等による移転予定の有無に関わらず)今のお住まいにずっと住んでいたいと思いますか。

●定住意向は依然高い傾向にある(R5:86.6%⇒今回:86.4%)。



3 皆さまの暮らしについてお聞きました

(3)定住意向【(参考)報告書p.20】

Q:住み続けている理由を教えてください。

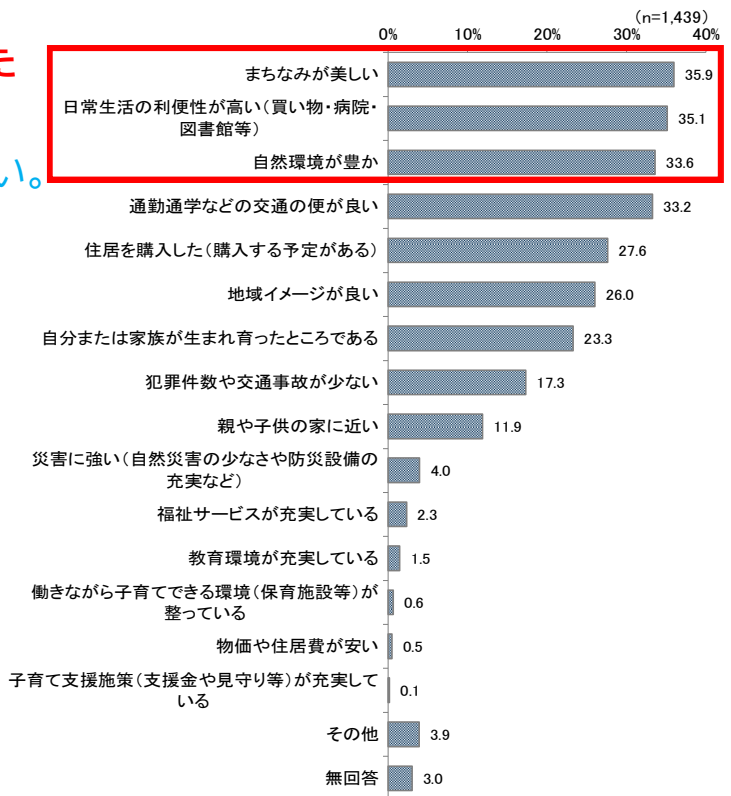
●上位3つ

1位 まちなみが美しい 35.9%

2位 日常生活の利便性が高い
(買い物・病院・図書館等) 35.1%

3位 自然環境が豊か 33.6%

住宅都市としての特徴が伺える

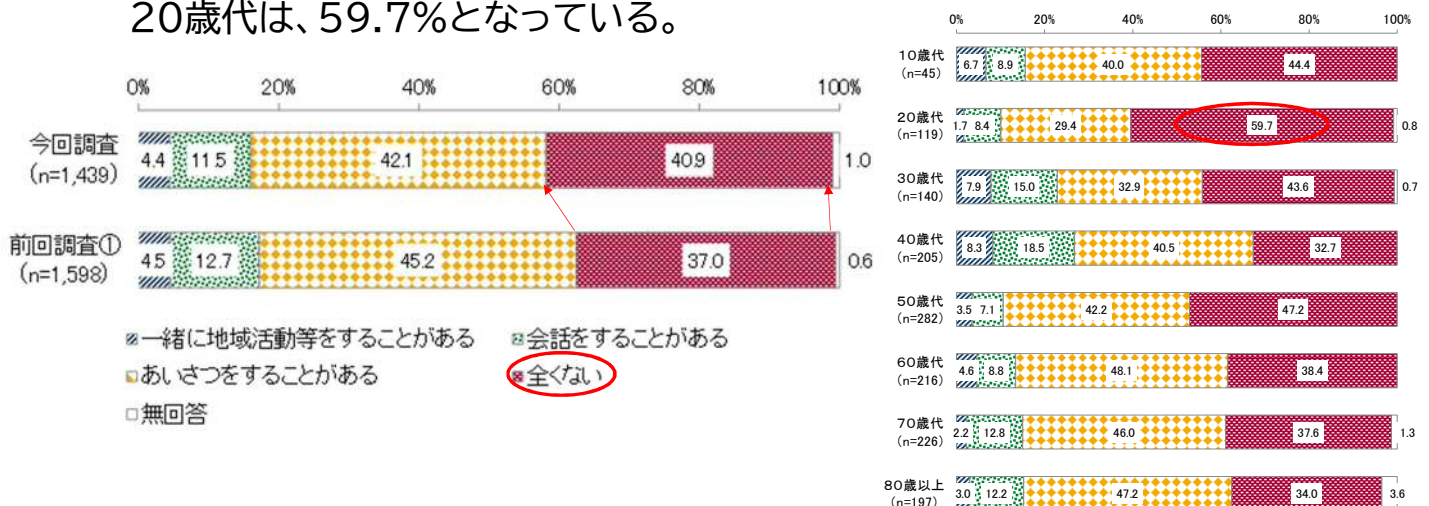


4 地域のつながりの変化についてお聞きました

(1)日常的に近所の子どもと接する機会【(参考)報告書p.35～36】

Q:あなたは、日常的に近所の子どもと接する機会がありますか。

●「全くない」が、上昇している(R5:37.0%⇒今回:40.9%)。
20歳代は、59.7%となっている。

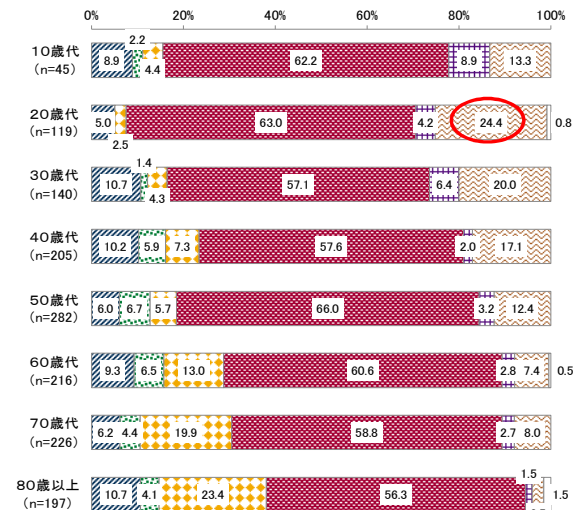


4 地域のつながりの変化についてお聞きしました

(2)地域の人との関わりの程度【(参考)報告書p.41～42】

Q:あなたは、お住まいの地域の人とどの程度の関わりがありますか。

- 「全く付き合いがない」が、上昇している(R5:9.1%⇒今回:12.0%)。20歳代は、24.4%となっている。

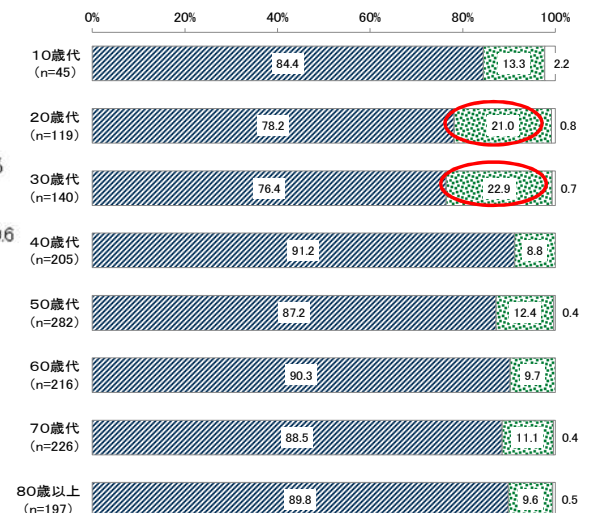
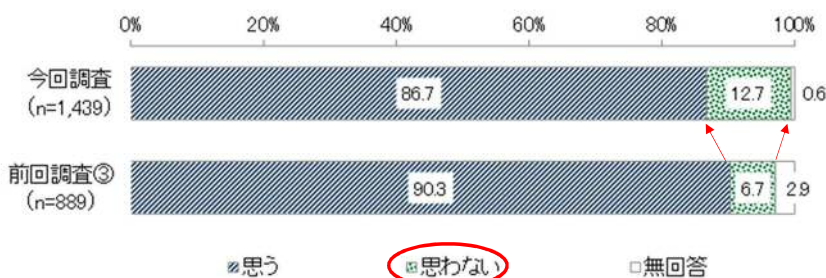


4 地域のつながりの変化についてお聞きしました

(3)地域の人との関わりは必要だと思うか【(参考)報告書p.43～44】

Q:あなたは、地域の人との関わりは必要だと思いますか。

- 「思わない」が、上昇している(R5:6.7%⇒今回:12.7%)。20・30歳代は、20%超えとなっている。

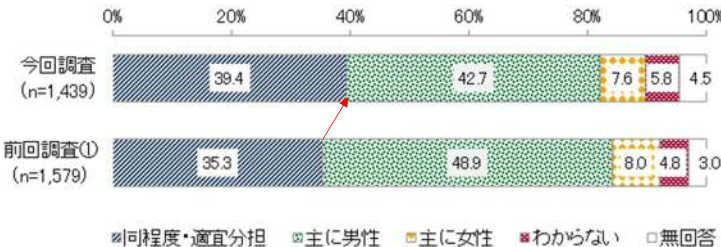


5 夫婦間の役割分担への意識についてお聞きしました

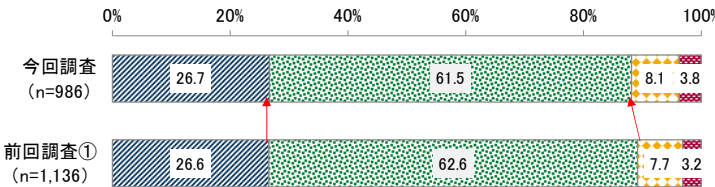
(1)生活費の負担(理想・現実)【(参考)報告書p.88】

Q:あなたは、家事や育児など夫婦間での分担についてどのようにお考えですか。

●【理想】「同程度・適宜分担」が、上昇している(R5:35.3%⇒今回:39.4%)。



●【現実】「主に男性」が、負担している(R5:62.6%⇒今回:61.5%【微減】)。



5 夫婦間の役割分担への意識についてお聞きしました

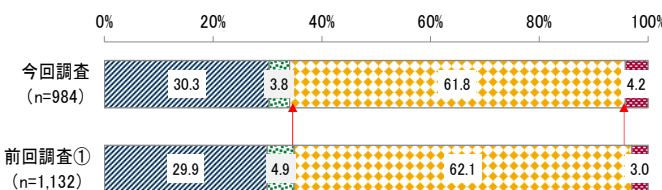
(2)家事の負担(理想・現実)【(参考)報告書p.94】

Q:あなたは、家事や育児など夫婦間での分担についてどのようにお考えですか。

●【理想】「主に女性」が、減少している(R5:31.5%⇒今回:29.3%)。



●【現実】「主に女性」が、負担している(R5:62.1%⇒今回:61.8%【微減】)。



5 夫婦間の役割分担への意識についてお聞きしました

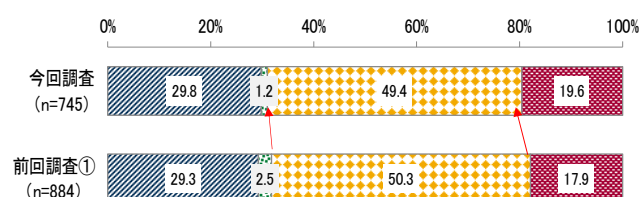
(3) 育児・子育ての負担(理想)【(参考)報告書p.100】

Q:あなたは、家事や育児など夫婦間での分担についてどのようにお考えですか。

●【理想】「主に女性」が、減少している(R5:15.7%⇒今回:13.1%)。



●【現実】「主に女性」が、負担している(R5:50.3%⇒今回:49.4%【微減】)。



6 各施策目標の達成度合いをお聞きしました

(1) 施策目標ごとの満足度 【(参考)報告書p.109～110】

Q:総合計画の掲げる13の施策目標について、芦屋市の現状をどのように感じていますか。

●「満足」と「やや満足」の割合の合計 上位3つ

- 1位 ⑨住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている 81.3% (R5:73.7%)
- 2位 ⑥良好な生活環境が整い魅力的な暮らしが創出されている 75.4% (R5:70.1%)
- 3位 ⑩持続可能なインフラ整備が進んでいる 74.3% (R5:63.2%)

●「不満」と「やや不満」の割合の合計 上位3つ

- 1位 ⑧日常の安全安心が確保されている 19.5% (R5:27.1%)
- 2位 ⑫人口減少社会に対応した健全で効果的な行財政運営が行われている 19.1% (R5:44.4%)
- 3位 ⑬急速な社会変化に対応できる組織になっている 17.2% (R5:42.9%)

6 各施策目標の達成度合いをお聞きしました

今回の特徴:すべての施策目標において、
「不満」「やや不満」が改善されている

●「満足」と「やや満足」の割合の上昇率 上位3つ

- 1位 ⑩持続可能なインフラ整備が進んでいる +11.1%(対R5比)
- 2位 ⑬急速な社会変化に対応できる組織になっている +8.5%(対R5比)
- 3位 ⑨住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている +7.6%(対R5比)

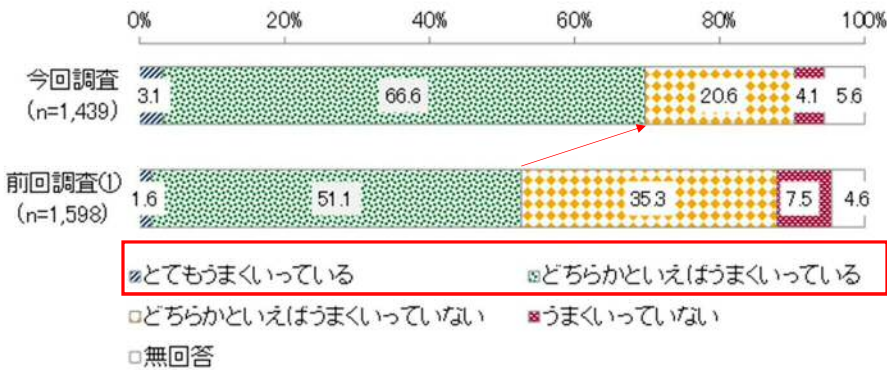
●「不満」と「やや不満」の割合の改善率 上位3つ

- 1位 ⑬急速な社会変化に対応できる組織になっている +25.7%(対R5比)
- 2位 ⑫人口減少社会に対応した健全で効果的な行財政運営が行われている +25.3%(対R5比)
- 3位 ⑪協働の意欲が高まり地域住民主体のまちづくりが進んでいる +20.4%(対R5比)

6 各施策目標の達成度合いをお聞きしました

(2) 芦屋市の現状の評価 【(参考)報告書p.150】
Q:あなたは、13項目の施策の目標全体を通して見たときに、
芦屋市の現状をどのように感じていますか。

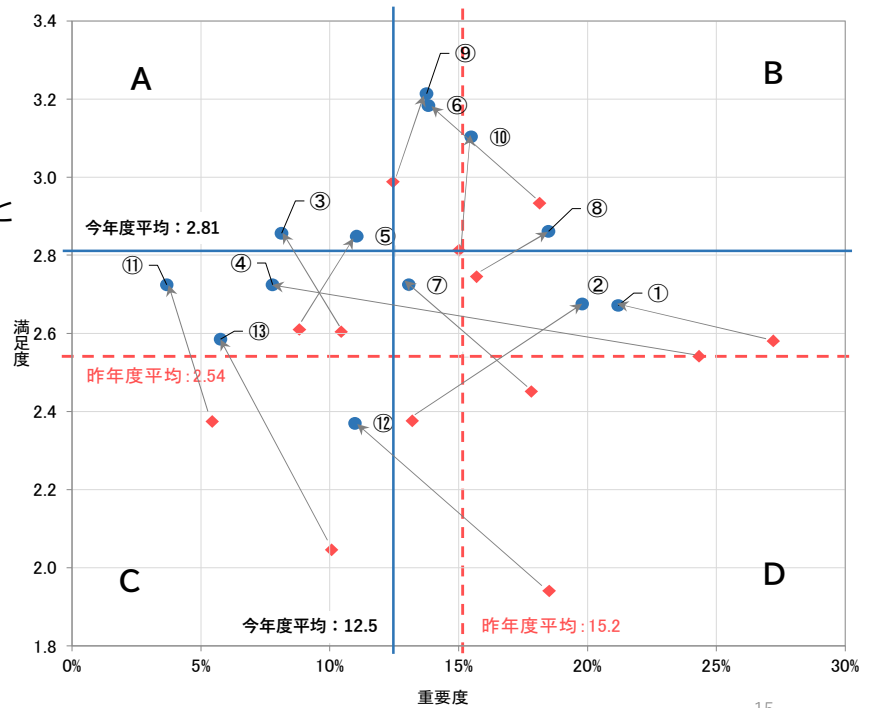
●評価は、大幅に上昇している(R5:52.7%⇒今回:69.7%)。



6 各施策目標の達成度合いをお聞きしました

(3) 前回調査(R5)との比較 【(参考)報告書p.163】

- ・象限A…満足度が高く、重要度が低い
⇒施策が評価され、緊急性は低いと意識される分野
- ・象限B…満足度・重要度ともに高い
⇒施策が評価されているが、さらに発展が求められる分野
- ・象限C…満足度・重要度ともに低い
⇒施策への評価は低く、関心も低い分野
- ・象限D…満足度が低く、重要度が高い
⇒施策への評価が低く、重点的な取組が求められる分野



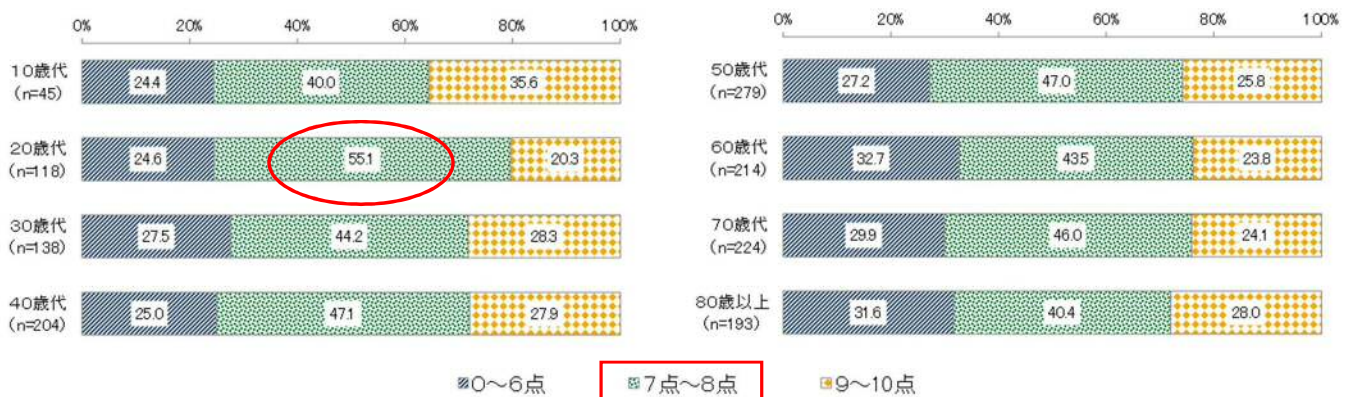
15

7 皆さまの暮らしについてお聞きしました

(1) 自身の幸福度(年代別)【(参考)報告書p.173】

Q:現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点ですか。

●20代は他の年代と比較して7～8点の割合が高い(参考:芦屋市 平均7.3点)。

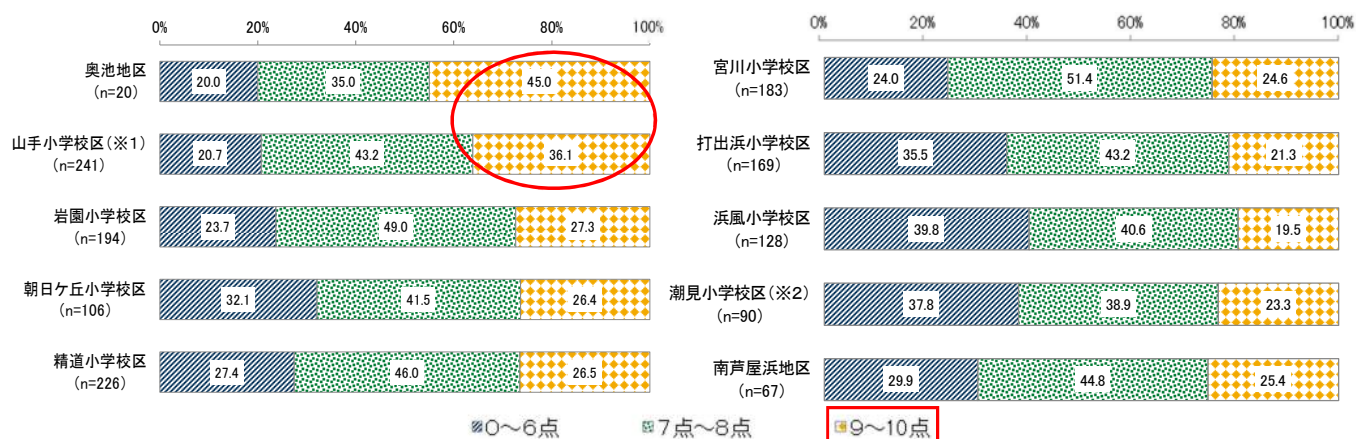


7 皆さまの暮らしについてお聞きました

(2)暮らしの満足度(地域別)【(参考)報告書p.177】

Q:現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。
「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点とすると、何点ですか。

●奥池地区、山手小学校区は、他の地区と比較して9～10点の割合が高い
(参考:芦屋市 平均7.3点)。



8 文化についてお聞きました

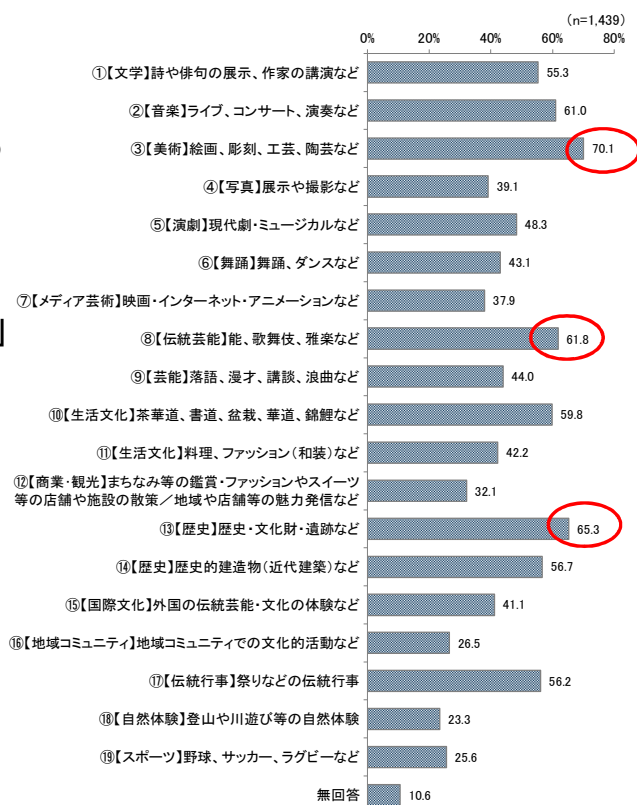
(1)「文化」という言葉に対してイメージするもの【(参考)報告書p.184】

●上位3つ

1位 ③【美術】絵画、彫刻、工芸、陶芸など
70.1%

2位 ⑬【歴史】歴史・文化財・遺跡など
65.3%

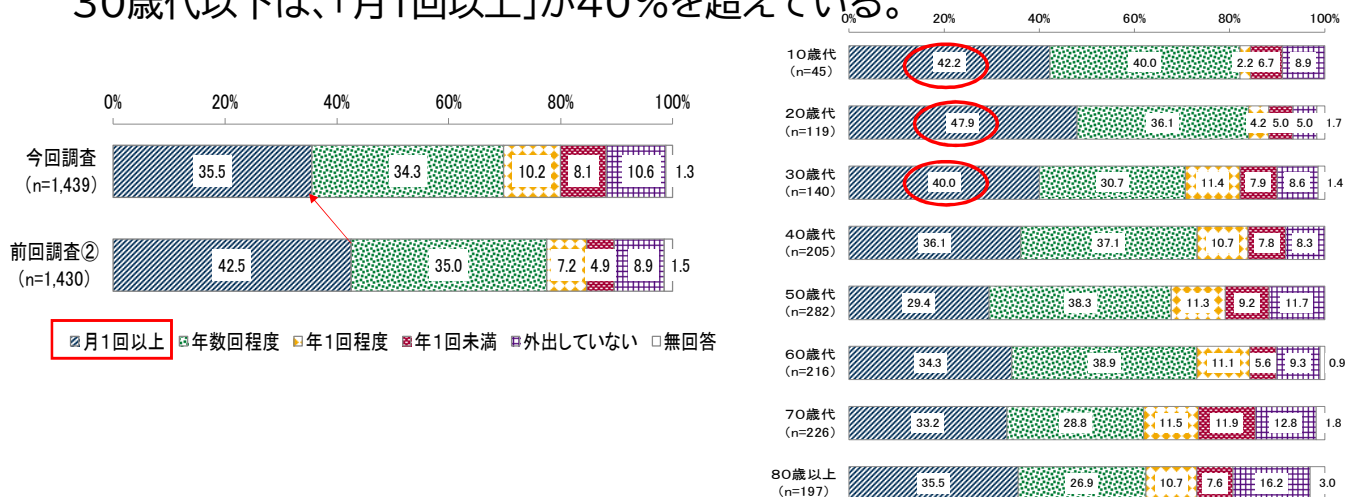
3位 ⑨【伝統芸能】能、歌舞伎、雅楽など
61.8%



8 文化についてお聞きました

(2)映画・音楽・美術・読書・スポーツ等に触れる体験を行うための外出頻度
【(参考)報告書p.230～231】

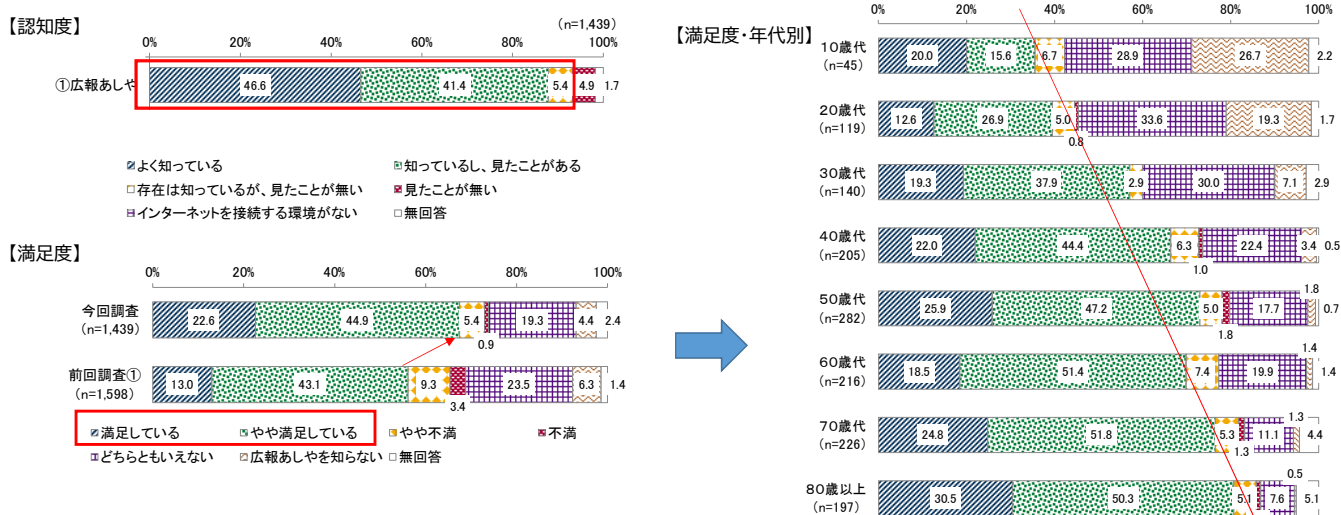
- 「月1回以上」が、減少している(R5:42.5%⇒今回:35.5%)。
30歳代以下は、「月1回以上」が40%を超えている。



9 周知啓発についてお聞きました

(1) 広報あしや【(参考)報告書p.246、250、251】

- 認知度:「知っている」が、93.4%。満足度は、前回に比べ上昇している(R5:56.1%⇒今回:67.5%)。また、年代が上がるにつれ、満足度が上昇傾向にある。

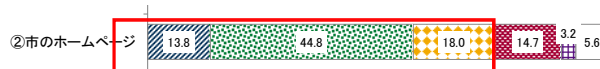


9 周知啓発についてお聞きしました

(2) 市ホームページ【(参考)報告書p.246、255、256】

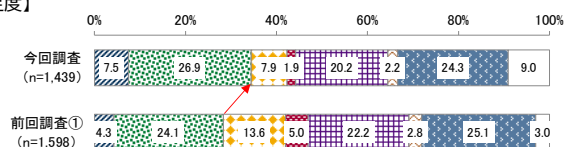
●認知度：「知っている」が、76.6%。満足度は、前回に比べ上昇しているが（R5:28.4%⇒今回:34.4%）、30・40・60歳代では、満足度が低い傾向にある。

【認知度】



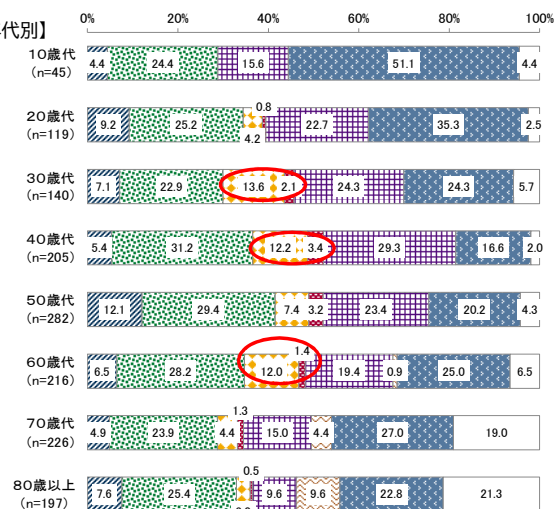
■よく知っている
 ■知っているし、見たことがある
 ■存在は知っているが、見たことが無い
 ■見たことが無い
 ■インターネットを接続する環境がない
 ■無回答

【満足度】



■満足している
 ■やや満足している
 ■やや不満
 ■不満
 ■どちらともいえない
 ■見たことが無い
 ■インターネットを接続する環境がない
 ■無回答

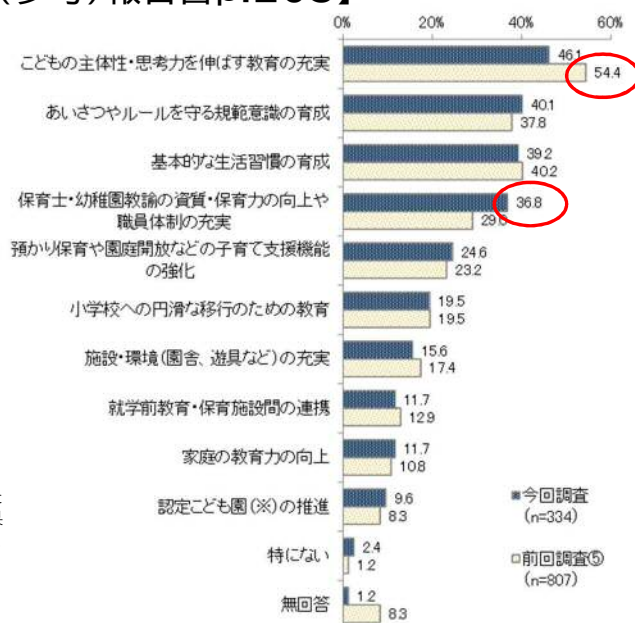
【満足度・年代別】



10 教育を充実させるための取組についてお聞きしました

(1) 就学前教育の充実のために必要な取組【(参考)報告書p.263】

- 前回調査に比べ、
 - ・「こどもの主体性・思考力を伸ばす教育の充実」が減少している（前回:54.4%⇒今回:46.1%）。
 - ・「保育士・幼稚園教諭の資質・保育力の向上や職員体制の充実」が、上昇している（前回:29.0%⇒今回:36.8%）。



(注) 前回調査⑤では、「高校生までの子どもがいる回答者」に限定して聞いていたため、今回調査のデータから「高校生までの子どもが居る世帯」のみを抽出した結果と比較している。また、前回調査⑤では、上記に加えて「わからない」「その他」という選択肢があったが、今回は該当する選択肢がないため表示していない。

10 教育を充実させるための取組についてお聞きしました

(2)小・中学校に対して望むこと【(参考)報告書p.265】

●前回調査に比べ、
「授業や教育活動がワクワクすること」が、
上昇している(前回:22.8%⇒今回:48.2%)。

- 減少しているといえる項目
- ・自尊感情やコミュニケーション能力を高める
ような支援を行うこと
 - ・教育に対する責任感や愛情を持って接すること
 - ・社会の要請や時代の変化に柔軟に対応する
力を持つこと

(注) 前回調査⑤では、「高校生までの子どもがいる回答者」に限定して聞いていたため、今回調査のデータから「高校生までの子どもが居る世帯」のみを抽出した結果と比較している。また、前回調査⑤では、上記に加えて「わからない」「その他」という選択肢があったが、今回は該当する選択肢がないため表示していない。

